

第36回

# 武蔵野政治塾

Musashino Political Academy



# フランスと日本 —原発大国に 明日はあるのか—

## 映画『太陽の蓋』の問いかけ

登壇者

# 橘 民義

【武蔵野政治塾事務局長】

11人の原発にかかわる専門家、  
国会議員らと意見交換



中川右介  
【作家／編集者】



司会

松下玲子  
【衆議院議員】

今回の「武蔵野政治塾」はフランスで映画「太陽の蓋」を上映し、その後の討論会に参加した橘民義（武蔵野政治塾事務局長）が、その様子と、後日フランスで原子力発電や被曝防護の専門家、現職の国会議員など11人にインタビューし議論した内容を、動画をお見せしながら、お伝えします。

核兵器と原子力発電に全力をつぎ込んでいくフランスという国に未来はあるのか、また原子力を最大限利用すると明言した日本のエネルギー政策は大きな間違いではないのか、そしてその迷路から抜け出す方法はあるのか。橘民義事務局長が武蔵野政治塾始まって以来、初めてメインで語ります。ツッコミ役は現地へ同行した作家の中川右介さんです。

2025年 **7月6日(日)**  
14:00～16:00(開場13:30)

【場所】 吉祥寺エクセルホテル東急 8Fアンバサダールーム  
(東京都武蔵野市吉祥寺本町2-4-14)

【参加費】 500円 【登壇者】 橘 民義、中川右介 【司会】 松下 玲子

【お申し込み】 武蔵野政治塾事務局

FAX: 03-4496-4989 TEL: 080-7421-8423

MAIL: info@musashino.ac



◀こちらのQRコードからお申し込みできます

会場  
アクセス



# フランス、グルノーブル市より招待され、 「太陽の蓋」の上映と討論を実施



5月にフランスに行ってきました。グルノーブルという町です。フランシス・レイのたまらなく美しいサウンドトラック「白い恋人たち」を思い出す映画の舞台となった、アルプスの裾にある風光明媚な所です。

しかしかつて冬季オリンピックを開催して多くの人に愛されているグルノーブルの街に、原子炉が動いているとは日本人には誰も想像できないでしょう。

そうなのです。フランスは核保有国でたくさんの核施設や原発が国中に配置されています。そのグルノーブルで2年に1回開かれる大きなイベントがあります。その「移行する都市」というテーマの集まりには、ヨーロッパだけでなく多くの国から都市問題や環境問題に興味のある人たちが集まってきました。

今回は第5回目で、日本からは映画「太陽の蓋」の上映と、ノーベル平和賞を受賞した被団協の田中總司さんたちが招待されました。

田中さんの被爆体験を語っていく講演は、じっと聞いているのもつらく、原爆の後の広島の話をも初めて聞いた聴衆は信じられないという表情を隠せず、若い人たちの涙をこらえきれない様子に、私ももらい泣きしました。

そのすぐ後、「太陽の蓋」が上映され、討論で私は「福島第一原子力発電所の事故は、あと少しで東京まで人が住むことができなくなるころだった、原発はたった1回の事故で国が成り立たなくなるほどの大きな影響を及ぼす可能性がある」という深刻な話を、少し熱を込めて話させていただきました。

一回で信じていただけたかどうかは分かりませんが、このことだけは、どうしても世界中の人に分かっていただきたい偽りのない事実です。

さてフランスですが、ナチスドイツに攻められてパリまで占領された第二次世界大戦以後は、国の主権を守ることを国是としてきたために、核兵器を装備することを当然のこととし、最大の力を注ぎ、同時に原子力発電も国中に作っていきました。その結果発電量の70%近くが原発という世界一原発大国となってしまいました。

今回は、これからまだ新型の原子力発電所を建設しようというフランスと、福島であれだけ大きな事故を起こしてもなお懲りずに原子力に頼ろうとする日本という、二大原発大国を比較して、共通点と相違点をあぶり出して、なおかつ出口を見つける方法を探っていきたいと思います。

フランスに同行した作家の中川右介さんに、少し質問をリードしていただいた後、会場の皆様とも質疑応答の時間を設けさせていただきます。(橋 民義)

映画「太陽の蓋」

(90分日本語字幕版)

視聴はこちら



経営者／  
武蔵野政治塾事務局長

橋  
民  
義

36歳で岡山県議会議員に初当選し、3期12年にわたり県政に携わる。政治家引退後、上場企業を立ち上げ、経営者として活動が続いている。2016年には映画『太陽の蓋』を製作・公開。脱原発をテーマに、国内外で発信を行っている。現在は武蔵野政治塾の事務局長として、リアルな議論の場づくりに取り組んでいる。



作家／  
編集者  
中  
川  
右  
介

早稲田大学エクステンションセンター講師。クラシック音楽、歌舞伎、映画、歌謡曲、マンガなど幅広いジャンルのノンフィクションを執筆。近著に『昭和20年8月15日』『巣鴨プリズンから帰ってきた男たち』。菅直人元首相の『東電福島原発事故 総理大臣として考えたこと』『原発事故10年目の真実』の編集者。

武蔵野政治塾  
会員募集中

武蔵野政治塾は、かつては広い平原の林が隈なく染まって、どこまでも続く原野だった武蔵野から、行き詰まりそうな日本の政治に復活の息を吹き込むことができるように、と考え、発足しました。静かに、落ち着いて、そして激しく議論します。「政治塾」とありますが、政治家の養成セミナーではありません。当塾では一緒に政治を語ったり、意見交換をしたり、イベントに参加いただける会員を募集しております。入退会自由・会費不要。お申込みはメールにて。お名前、ふりがな、お住まいの自治体名、年代、メールアドレス、電話番号(任意)をご記入の上、info@musashino.ac までご連絡ください。



武蔵野  
政治塾  
公式サイト